

# 週刊センターニュース

No.242



第242号(2009年1月19日) 毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## ○●○ 第211回共同学習会のご案内 ○●○

日時: 2月4日(水) 13時~15時(曜日・時間が通常と異なります。ご注意ください)

テーマ: 来年度の大学・社会生活論「新聞から学ぶ」を考える

会場: 角間キャンパス総合教育1号館1階小会議室

趣旨: 今年度行われた大学・社会生活論「新聞から学ぶ」の授業記録CDを見ながら、来年度ご担当いただく読売新聞社金沢支局長を交えて授業方法等について議論を行う。学類の大学・社会生活論のコーディネーター、教務委員会委員等、多くの方々の参加を得て、議論したい。

## ○●○ 第6回大学教育セミナーのご案内 ○●○

テーマ: 「FD・ICT教育推進室が進めている学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築(最終報告)」

日時: 2月14日(土) 13:00~17:45

会場: ホテル金沢 ダイヤモンドルーム(2F)

主催: 大学教育開発・支援センター

共催: 総合メディア基盤センター、学生部 後援: 大学コンソーシアム石川

※詳細は、<http://www.el.kanazawa-u.ac.jp/Homepage/Activities/sympo2009feb/sympo2009feb.php> をご参照下さい。

## ○●○ FD・ICT教育推進室活動紹介(中教審答申との関わり) ○●○

平成20年12月24日に中央教育審議会から「学士課程教育の構築に向けて」(答申)が出された。今回は、その答申内容とFD・ICT教育推進室の活動との関連について述べさせていただく。(以下、答申本文は、文部科学省Webページより抜粋。)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)

①第2章/第2節/3 教育方法の改善/(3) 具体的な改善方策/【大学に期待される取組】での、「教育研究上の目的等に即して情報通信技術を積極的に取り入れ、教育方法の改善を図る。的確な授業設計を行った上で、例えば、以下のような取組について検討する。「ビデオ・オン・デマンド・システム等、eラーニングの活用による遠隔教育、学習管理システム(LMS: Learning Management System)を利用した事前・事後学習の推進、教室の講義とeラーニングによる自習の組み合わせ、講義とインターネット上でのグループワークの組合せ(いわゆるブレンディッド型学習)の導入、携帯端末を活用した学生応答・理解度把握システム(いわゆるクlicker技術)による双方向型授業の展開」および②同節4成績評価/(3)具体的な改善方策/【大学に期待される取組】での「学生が、自らの学習成果の達成状況について整理・点検するとともに、これを大学が活用し、多面的に評価する仕組み(いわゆる学習ポートフォリオ)の導入と活用を検討する。」の2点は、アカンサスポータル整備による学習の振り返りのできるポートフォリオ整備、ICT活用授業支援、オリジナルe-Learning教材作成支援、高等教育クlicker研究会立ち上げなど、FD・ICT教育推進室の活動にまさに合致している。

また、第3章/(3)/【大学に期待される取組】での、①「学士課程教育における三つの方針(学位

授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針)に関する共通理解を確立し、教員各自の教育実践の在り方を主体的に見直す場としてFDを機能させ、活性化を図る。その際、大学全体、学部・学科等のそれぞれの段階において、FDに関する効果的な役割・機能分担を図る。FDの実施内容・方法について、一方向の講義だけに偏るのではなく、双方向的なワークショップ、教員相互の授業参観や相互評価などを積極的に取り入れる。成績評価や学生による授業評価の結果について、FDの場や機会における議論や分析の対象とし、授業や教育課程、評価方法の組織的な改善に生かしていく。」、②「FDの実施に当たって、多様な参加者へのきめ細かな配慮をする。新任教員の参加に特に配慮し、できるだけすべての新任教員がFDに参加するように努める。常勤の研究者教員のみならず、大学の実情に応じ、実務家教員や非常勤教員に対するFDの場や機会の提供についても配慮する。その際、単に授業の改善にとどまらず、上記の三つの方針に関する共通理解を確立することに留意する。テーマに応じて、職員の積極的な参画を促す。」、③「個々の教員の授業改善に向けた努力を支援する体制を整える。教員の求めに応じて授業の実態を診断し、具体的な助言を行うコンサルテーションの充実に努める。優れた教育実践を行う教員に対し、例えば、顕彰や教育方法改善に向けた援助を行うことを検討する。」、④「教員の人事・採用に当たっての業績評価について、研究面に偏することなく、教育面を一層重視する。大学として、自学の教員に求める役割・責務、専門性等を学内外に明らかにする。評価に際しては、教員の自己評価を取り入れる(教員は、学生による授業評価の結果を自らの評価に反映させる)。評価の対象として、例えば、優れた教科書や教材の作成についても積極的に位置付ける。FDに関する積極的な取組についても、適切と認める場合は評価の対象とする。さらに、授業改善に向けた様々な努力や成果を適切に評価する観点から、教員が教育業績の記録を整理・活用する仕組み(いわゆるティーチング・ポートフォリオ)の導入・活用を積極的に検討する。教員の役割の機能分化(教育・研究・社会貢献など)に対応した教員評価の工夫について研究する。大学院修了者を教員として採用する際、審査に当たって、TAとしての教育実績を適切に評価する。」の4点からは、FD・ICT教育推進室が実施している、学習管理システム利用のティーチング・ポートフォリオ導入、アカンサスポータルによる学内構成員の共有認識形成、個々の教員のFD活動への支援体制などが、現在の高等教育の流れに沿ったものであることが確認出来る。

また、平成20年度政策課題対応経費「学士課程教育の改革に伴うFD推進と教育実施・支援モデルの構築」によるFD・ICT教育推進室活動への支援は、同答申第3章／(3)／【国によって行われるべき支援・取組】にある「FDの推進に資する大学教育支援の拠点の設置について研究する。その役割としては、大学教育センターのFD指導者の養成、FD・SDのパイロットプログラム開発、分野別教育支援のネットワークの調整、FDにおけるeラーニングやICTの活用、優れたFDの実践や革新的な教育方法に関する情報収集と提供などが考えられる。」に合致した国による支援モデルでもある。

このように、FD・ICT教育推進室の活動は、中教審答申とも合致したものであり、今後とも、現在の方向性を維持しながら、学内各部局、教職員、学生と連携しながら、金沢大学における教育をより良くするために努力していきたい。

(文責 評価システム研究部門 堀井祐介 (FD・ICT教育推進室実務委員会委員長))

## ○●○ 重要 就職支援について 緊急に確認してください ○●○

内定取り消しについて、連日のように報道されております。本学では、昨年末、「内定取り消しを受けた場合の対応について」と題する緊急告知をアカンサスポータルトップページに掲載し学生に対応についての情報提供を行っているほか、教育企画会議を通じて関連報告をする等、教職員の皆様に就職支援の徹底をお願いしております。全教員配布の学生部『FD・SDテキスト 教職員研修用 学生サポートガイドブック 教職員必携 2008』では、「第5章就職支援」55-73頁の中で、内定取り消しへの対応を含め、本学における就職支援に必要な情報を掲載しております。本学は、中期計画において「就職支援に関する教職員の意識改革を図ることを規定しており、就職を希望する学生への支援は、教職員の本務です。これを機に今一度、上記サポートガイドブックを読み直し、また、就職支援室のサイトにて現状をご確認ください。なお、12月に引き続き開催します、2月10日-12日の金沢大学主催「業界・企業研究会」へのご協力もよろしくお願い致します。

(文責 教育支援システム研究部門教授 青野 透 (教育企画会議就職支援部会長))